

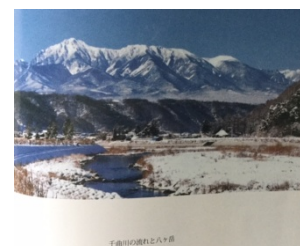
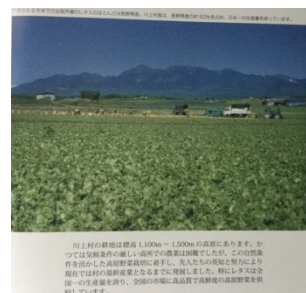
長野県川上村

写真は『川上村誌 通史編 現代 昭和終戦後 近現代史概説』2016年3月から。この川上村には忘れがたい思い出がある。今から20年ほど前、宮本憲一先生ご夫妻らと調査に行ったことがある。私なりの成果を『地域経営と内発的発展』農山漁村文化協会に所収『高原野菜の村』の自立経営プロセスと自治体経営』に書いている。調査の際に役場でヒアリングをさせてもらうなど、お世話になった藤原忠彦村長の「発刊にあたって」を紹介しておきたい。

川上村の近現代史の歴史の内、明治元年から大正・昭和終戦までの変遷と記録については公文書を基に年史として編纂した『川上村誌 通史編 近代』を2015年に発刊しました。引き続き、昭和終戦後の村の復興、農村として自立の経過を年史としてまとめ、加えて総括的な近現代通史の概要をまとめた『川上村誌 通史編 現代 昭和終戦後』を刊行する次第です。

日本においては、昭和20年8月15日に終戦となって、復興と民主化への道を歩み出しました。日本国憲法の制定、教育基本法や農業基本法等が施行され、多くの苦境を克服し飛躍的な進展をなして、経済大国と言われるほどの復興を遂げました。

川上村でも、郷土復興に力がそそがれ、山々に落葉松を植栽し、緑豊かな山林の復活を期し、苗木は東北・北海道方面に移出して植林されました。特に、それまで行われていた白菜や大根の生産に加え、レタスの栽培が開始されたことは、川上村にとって大きな変革点となりました。これまで苦しんでいた山間高冷地で冷涼な気象条件が、高原野菜の最適地となったのです。そして、地域ぐるみで原野を切り拓き、農業基盤整備に力を注ぎ、時代を先取りした施策と村民の一致団結した組織力によって、「レタス生産日本一」といわれるような高原野菜の村へと変貌を遂げました。その発展とともに、生活用水や道路網の整備、医療福祉の向上、教育や文化の進展など、戦後の昭和期は加速度を増しながら著しい変化の起こった時代でした。この変遷をまとめた本書により、先人たちの英知と弛まない努力と歴史に学び、将来を見据える糧となれば幸いです。



(2016年10月13日)